



来たか…

……



そこで何を
しているのです!



…リーン・フォシユバー姫!

これはこれは…
たった一人で玉座まで
やってこられるとは

なるほど
噂に違わぬ天武の才を
お持ちのようだ





囚われた心
Captive Hearts



はあああああ



なぜ突然同盟国の
カルナダ兵が王都に…

アシュレイ將軍!

敵魔導師
率いる部隊が

すでに城内に!

まさか王族のみが知る
抜け道から…!?

ここはお前達に
まかせる!

全ヴァルキュリア隊は
私に続け!!



居ました!

タタタッ



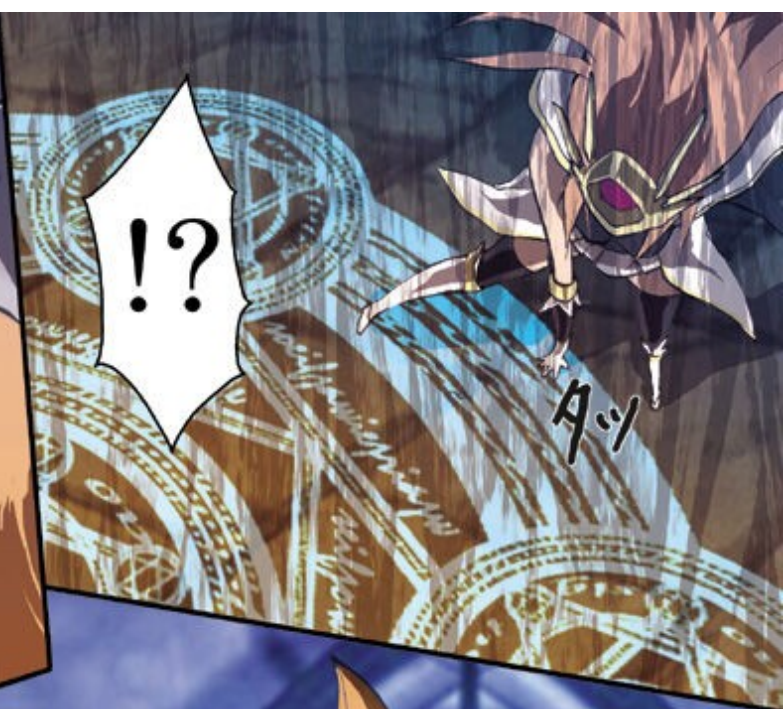
私達だけで
止めるわよ!

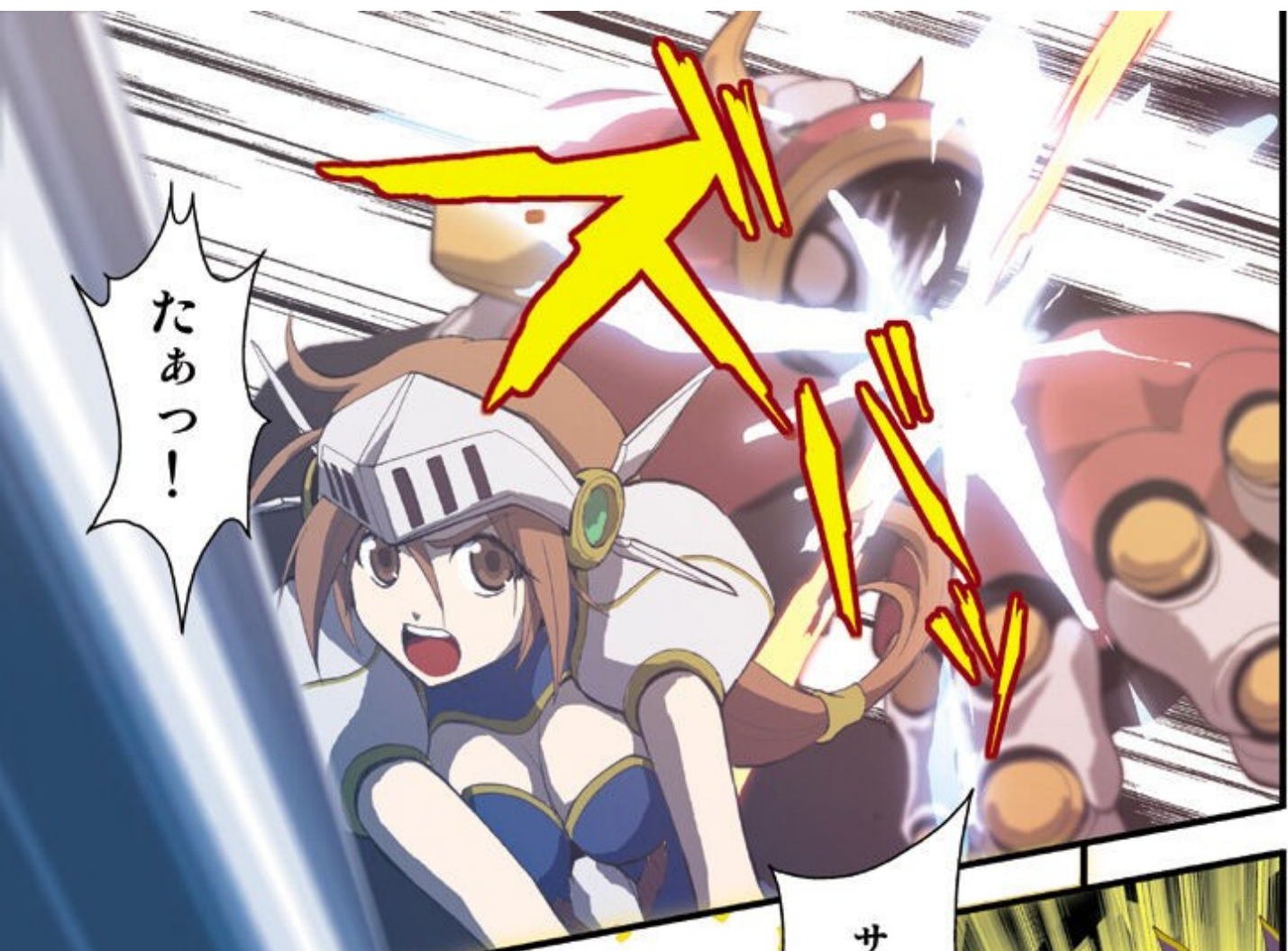


漆黒のローブの
魔導師...!!



援軍を待ってる
暇はないわ!



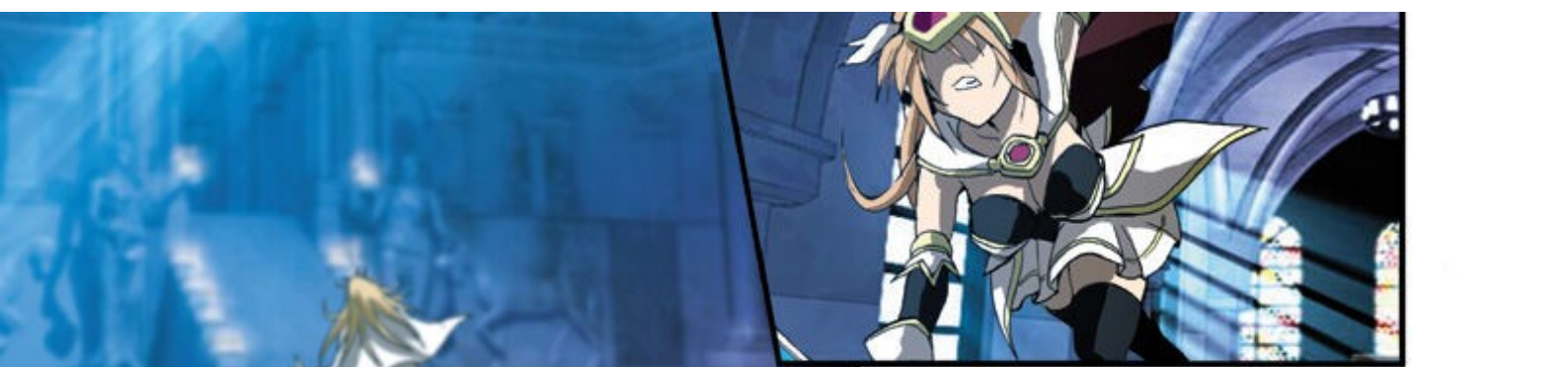


たあつ!



サンダーstorm!!

オオオオオオ





さすが聖王国の玉座
実に座り心地がいい



その玉座は
王のものです

あなたに
座る資格は
ありません



カルナダ国同様
この玉座はすでに
我が物となったのだ

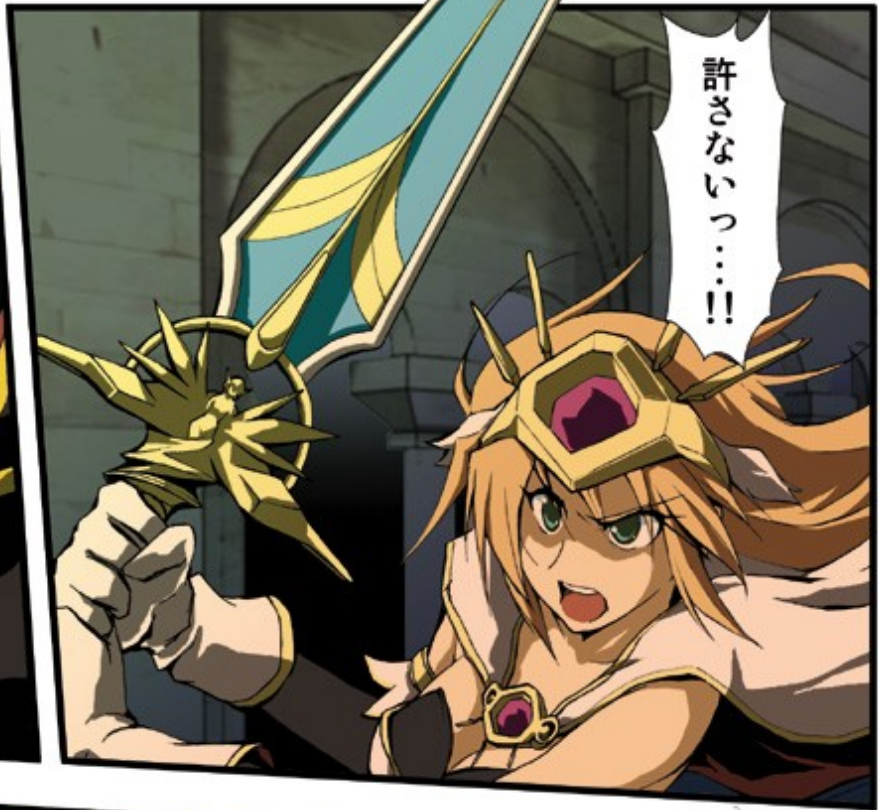
素性も分からない
魔導師に王位を継がせる
なんてありえないわ



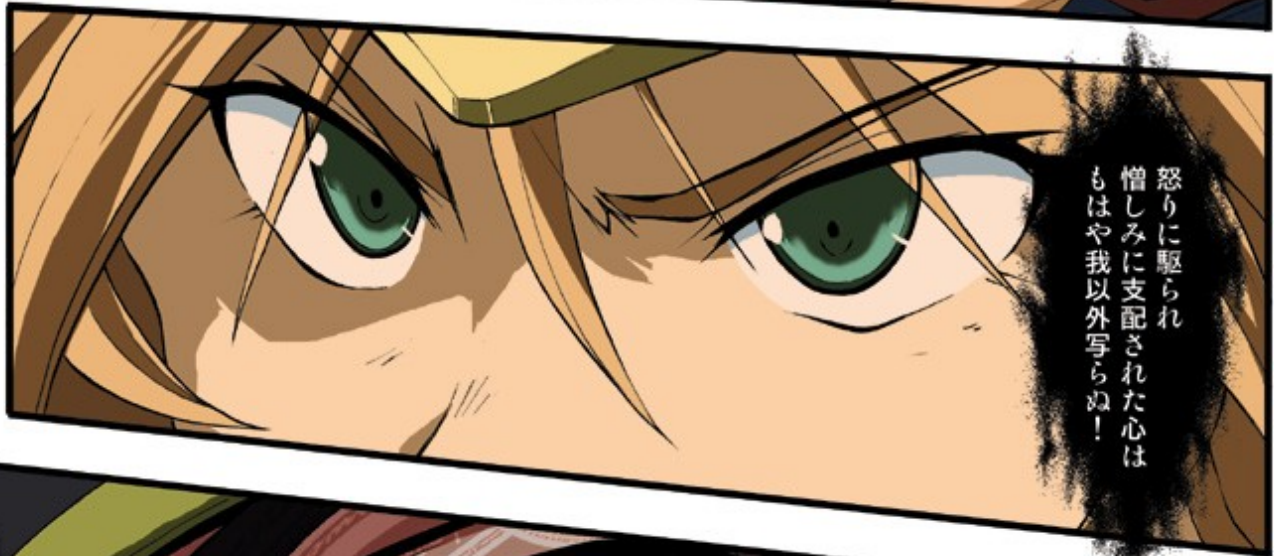
まさか...



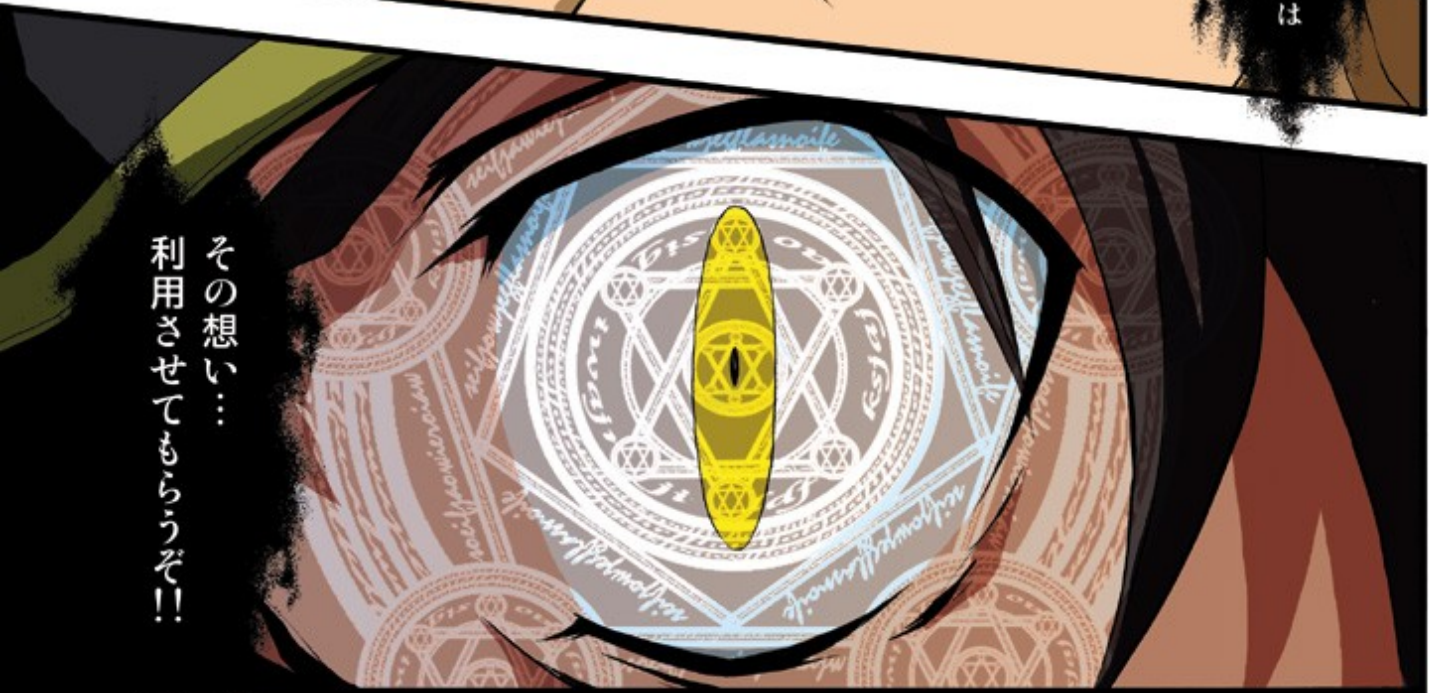
我が真の目的は聖剣と
リン姫を手にする事
この時を待ちわびたぞ!!



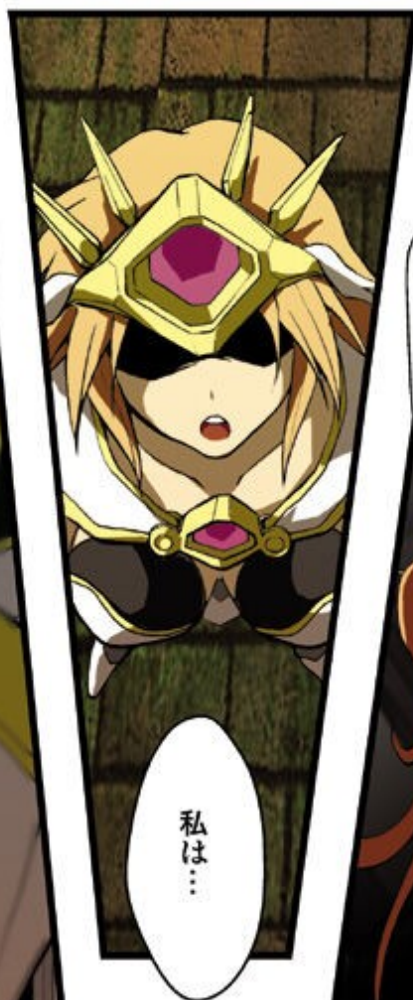
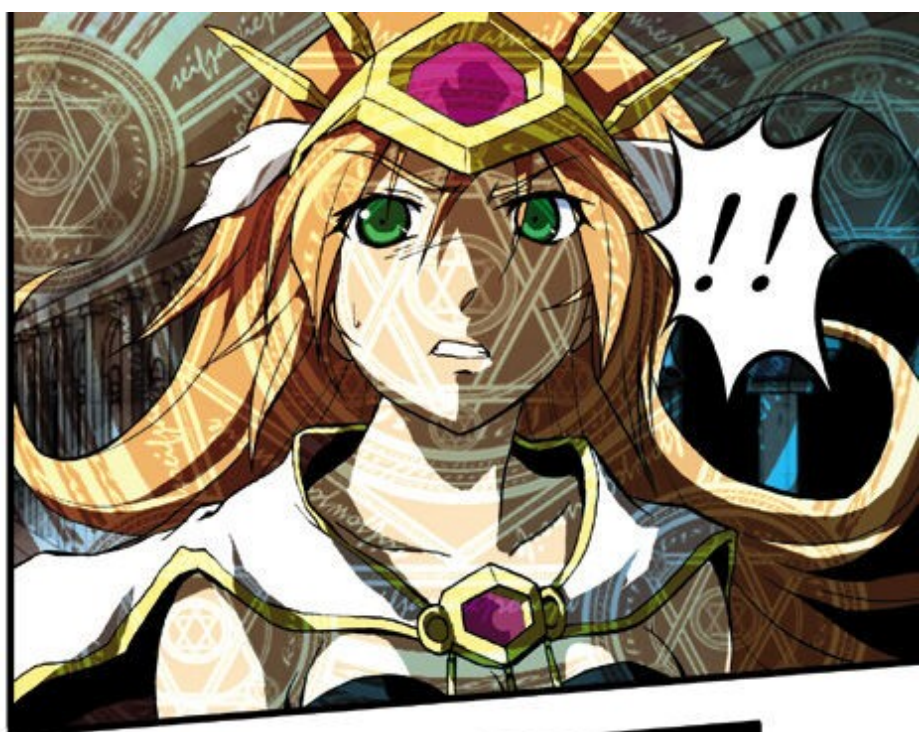
許さないっ…!!



怒りに駆られ
憎しみに支配された心は
もはや我以外写らぬ!



その想い…
利用させてもらおうぞ!!





なるほど
そなたが王国一の騎士
アシユレイ将軍か…

我を一人で倒そうとは
大した自信ではないか

貴様が古の
魔導師とやらか…

姫様
あとは私に
お任せください



このアシユレイ！
ハンニヴァルが

姫様に指一本
触れさせぬツ！！



あのような事を
申しておるが

リーン姫
そなたはどうする？



私は…





ご主人様に仇なす者は
なんびとたりとも
生かしてはおけません

私はご主人様の
忠実で従順なる僕…



貴様…
姫…様に…何を…



ご主人様に
聖王都の加護が
あらんことを…





私達も將軍に
続きましよう!

王国兵に反逆者が
いるなんて…



!?



姫様?



アシュレイ様は…

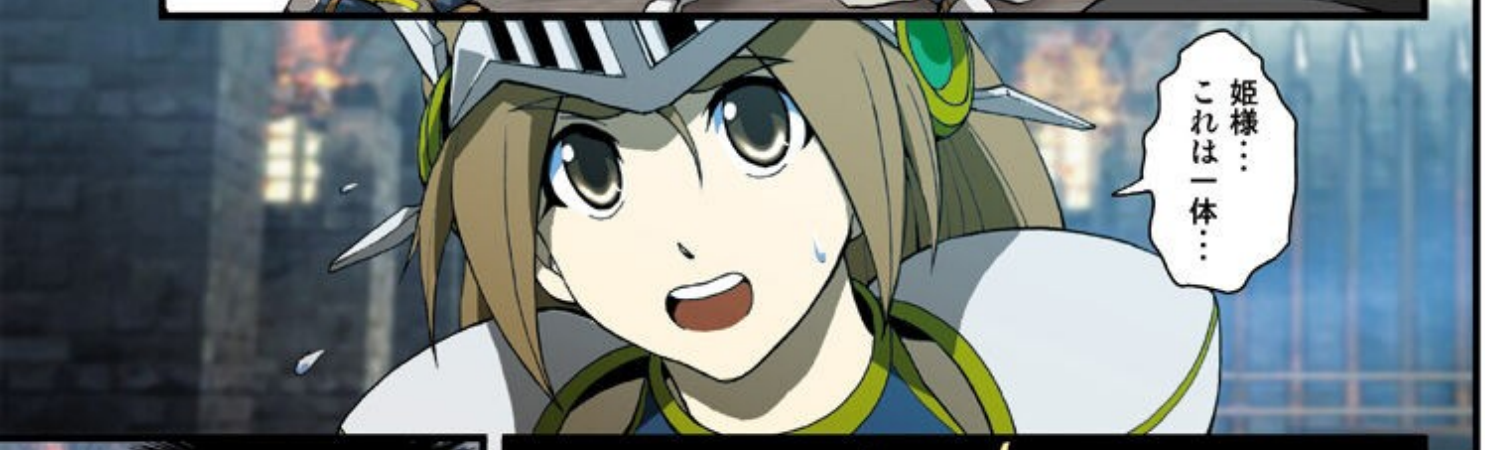
良かった
ご無事で!



さすがは聖王国が誇る
精鋭ヴァルキュリア隊

強く…
美しい…

我が配下の者が
全滅ではないか



姫様…
これは一体…



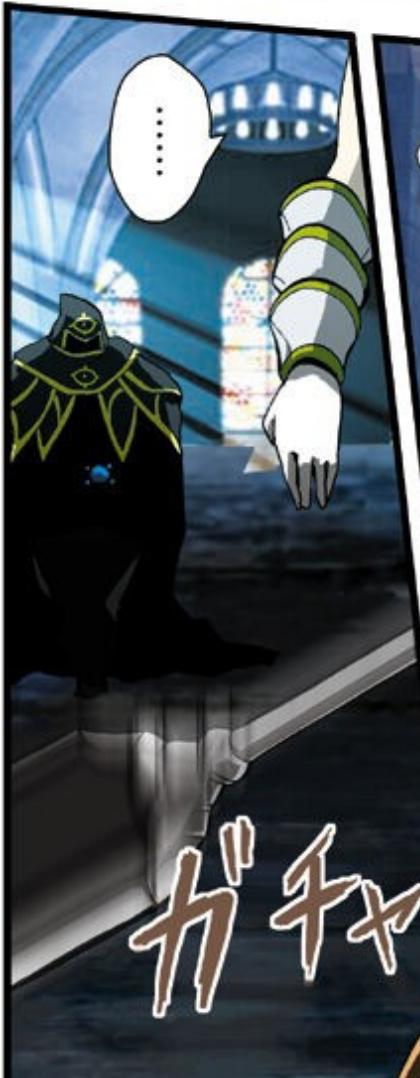
!!



アシュレイは
私が殺しました



何か得体の
知れない魔術が…





だが安心するがいい

戦乙女達よ…
我が僕となつて
姫と共に仕えることを
許してやろう…



ククク…
悔しかろう



目を逸らして!

彼の声に意識を
傾けてはダメ!

いけないっ!
この魔術は…っ



……ッ!?

こちら側へ
いらっしやい

姫様…

かつて高度な魔道文明で
栄えた国があった

その国は戦わずして人々を
支配する術を手に入れた

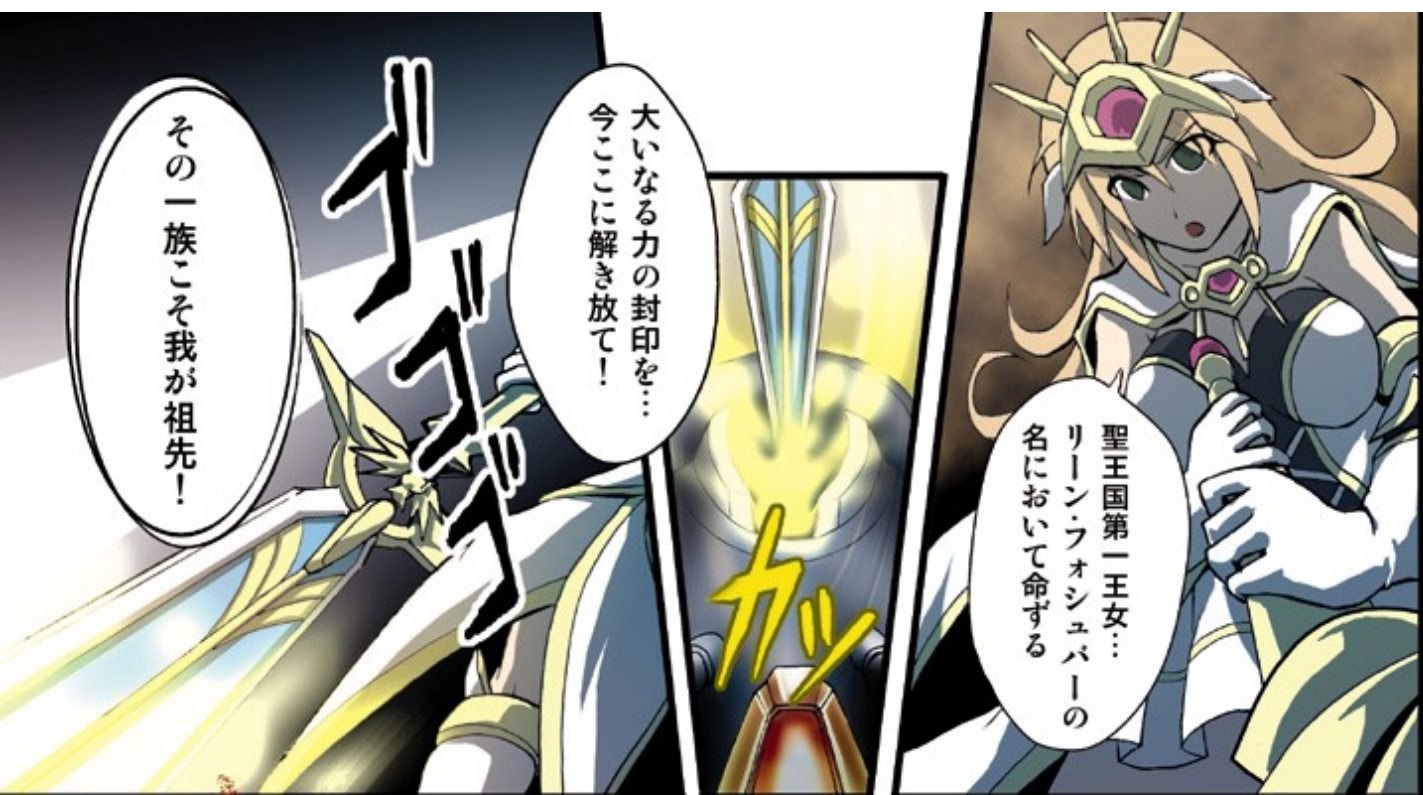
だが王家はそれを
禁呪とし施設を封印…

ご主人様
こちらです

研究に携わった
魔導師の一族を追放した

この先か…
封印を解除しろ

ご主人様の
仰せのままに



その一族こそ我が祖先!

大いなる力の封印を…
今ここに解き放て!

ガッ

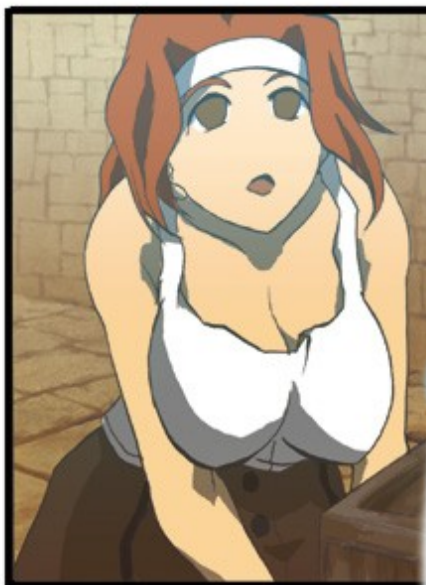
聖王国第一王女…
リオンノオッシュェバーの
名において命ずる



ついに手に入れたぞ…!!

禁呪とは人の心を支配する
我が魔術の増幅術式なり!





……ご主人様！





ククク…

今や聖王国と
姫は我が手中…



私はご主人様の
忠実で従順なる僕

僕に意思など
持ち合わせて
おりません



すべてはご主人様の
お心のままに…



さあ姫よ
次はどの国を
支配しようか？







あとは大陸を
手中に収めるのみ!

気高く美しい
手駒も手に入った



とめ...

新たな神話の
始まりだ!!





ご主人様の
仰せのままに

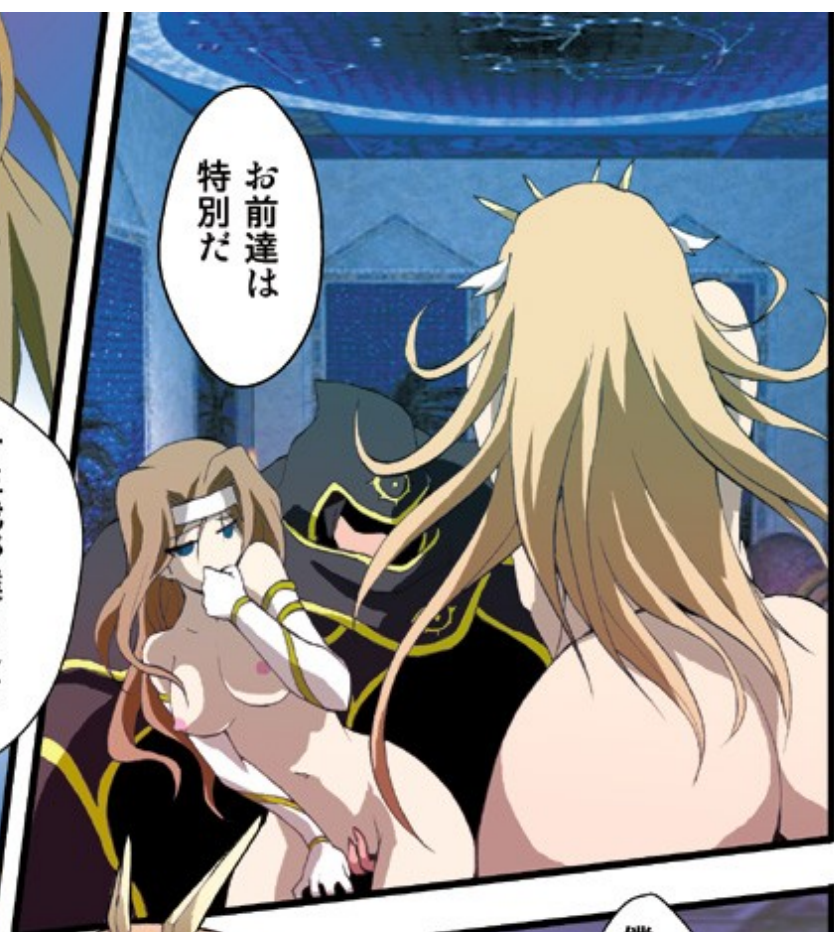
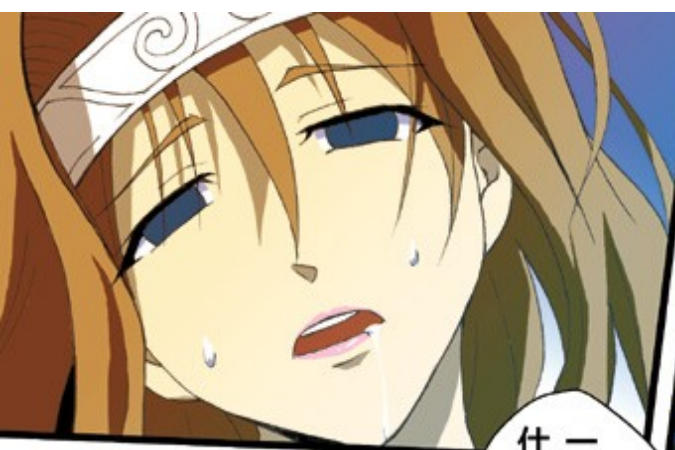
身も心も
捧げます



私も...



ご奉仕
いたします



お前達は
特別だ

一生我が僕として
仕えさせてやろう



僕は幸せです

いつまでも
ご主人様の側に...